

(第8号様式)

令和4年度三重県公共事業再評価箇所一覧表

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	
						採択年	総事業費	進捗率				事業進捗内容
							工事費	進捗率				
目標年	用地費	進捗率										
河川事業	3	二級河川堀切川	鈴鹿市	③	【全体事業概要】 全体事業費 15,834百万円 計画延長 (堀切川) L=3,970m (釜屋川) L=720m ・築堤 L=1,000m ・掘削 V=109,230m ³ ・引堤 L=450m ・護岸工 A=23,350m ² ・樋門・樋管 N=27基 ・橋梁 N=4橋 ・ポンプ増強 N=2基	H29	15,834	3%	【実施事業内容】 ・引堤 L=70m 【以降事業内容】 ・築堤 L=1,000m ・掘削 V=109,230m ³ ・引堤 L=380m ・護岸工 A=23,350m ² ・樋門・樋管 N=27基 ・橋梁 N=4橋 ・ポンプ増強 N=2基	三重県を縦断する国道23号や近鉄名古屋線が流域を横断しており、交通網が集中する地域であり、過去の浸水実績の発生状況および想定氾濫区域内の人口及び資産状況から、依然として事業の必要性が高い状況です。近年(平成16年、平成24年)、浸水被害が発生していることから、早期に治水安全度を向上させることが望まれています。	①地盤高データを最新のデータに更新し、評価メッシュを細分化したことにより、浸水深が増加した結果、費用便益比(B/C)が増加する結果となりました。 ②河道幅に余裕のある箇所における干潟の保全を行います。 ③河川の改修計画の手法に対する代替案には、『ダム案』、『遊水地案』がありますが、『ダム案』は流域の大部分が平地であり、上流域の丘陵地は土地利用が進んでいることから、ダムの適地はありません。また『遊水地案』は流域平地部は土地利用が進み、農地の中には集落も点在しており、広大な敷地を確保するには、用地の取得や移転補償が必要となり、社会的影響が大きく、設置は困難です。過去から河道改修を進めてきた実績もあることから、河道改修が妥当と考えています。	治水安全度の向上のため、継続して事業の推進を図ります。 令和28年度の完成を目標として、引き続き整備を進めます。
					【事業目的】 浸水被害を軽減するため、掘削、引堤及び築堤、護岸工、横断工作物の改築を実施することにより流下能力を増大させるとともに、高潮被害防止のために、水門や排水機場の整備を実施し、治水安全度の向上を図ります。	R28	362	2%				

注:再評価理由

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- ②事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- ③再評価実施後一定期間を経過している事業
- ④社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

※ 記載注意

- 1 事業名、番号、箇所名、市町名、再評価の理由は、第2号様式に準じて記載してください。
- 2 全体事業概要と目的は、説明資料から要旨のみを抜粋し、可能な限り箇条書きとしてください。全体事業費(計画)を記載してください。
- 3 採択年度、目標年度は、英字半角大文字、数字半角文字としてください。
- 4 総事業費、工事費、用地費は現在の進捗の費用を百万円単位で記載し、数字半角文字とします。
- 5 進捗率は、%とします。
- 6 事業進捗内容は、再評価の当年度以前に実施した事業内容と次年度以降に実施する予定の事業内容を可能な限り箇条書きとしてください。
- 7 事業を巡る社会経済情勢等の変化、費用便益分析結果、コスト削減の可能性、代替案の検討等は、説明資料から要旨のみを抜粋してください。

(第8号様式)

令和4年度三重県公共事業再評価箇所一覧表

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	事業進捗状況			事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し		
					採択年	総事業費	進捗率				事業進捗内容	
						工事費	進捗率					
						目標年	用地費					進捗率
河川事業	7	二級河川前川河川事業	志摩市	③	<p>【全体事業概要】 全体事業費 1,210百万円 計画延長 (前川) L=1,710m</p> <p>・築堤 V=3,400m³ ・掘削 V=14,700m³ ・護岸工 A=6,100m² ・ボックスカルバート N=1基 ・橋梁 N=1橋 ・水門(耐震) N=1基</p> <p>【事業目的】 浸水被害軽減のため、河川改修により流下能力を増大させるとともに、水門の耐震化を行い、治水安全度の向上を図ることを目的としています。</p>	H29	1,210	28%	<p>【実施事業内容】 ・水門(耐震) N=1基</p> <p>【以降事業内容】 ・築堤 V=3,400m³ ・掘削 V=14,700m³ ・護岸工 A=6,100m² ・ボックスカルバート N=1基 ・橋梁 N=1橋</p>	前川沿川には、近鉄志摩線や、国道167号、国道260号、県道128号などの交通網が充実し、移動性に優れていることから、住宅及び商業施設が集積し、市街地が広がっています。過去の浸水実績の発生状況および想定氾濫区域内の人口及び資産状況から、依然として事業の必要性が高い状況です。近年(平成27年)にも、浸水被害が発生していることから、早期に治水安全度を向上させることが望まれています。	①地盤高データを最新のデータに更新し、評価メッシュを細分化したことにより浸水面積が増加したため、費用便益比(B/C)が増加する結果となりました。 ②環境への配慮として護岸工法は、水生生物の生息環境に配慮し、多孔質な構造とするとともに、覆土を行うなどして水際の植生を保全します。河道掘削に際しては、現状のみお筋を極力保全することし、やむなく掘削する場合には、現状のみお筋が再生されるように掘削形状を工夫します。 ③河川の改修計画の手法に対する代替案には、『ダム案』、『遊水地案』がありますが、『ダム案』は流域の大部分が平地であり、上流域の山地は低山地であることや、土地利用が進んでいることから、ダムの適地がありません。また『遊水地案』は流域平地部は土地利用が進んでおり、広大な敷地を確保するには、用地の取得や移転補償が必要となり、社会的影響が大きく、設置は困難です。過去から河道改修を進めてきた実績もあることから、河道改修が妥当と考えています。	治水安全度の向上のため、継続して事業の推進を図ります。 令和28年度の完成を目標として、引き続き整備を進めます。
							1,178	27%				
						R28	32	72%				

注:再評価理由

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- ②事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- ③再評価実施後一定期間を経過している事業
- ④社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要性が生じた事業

※ 記載注意

- 1 事業名、番号、箇所名、市町名、再評価の理由は、第2号様式に準じて記載してください。
- 2 全体事業概要と目的は、説明資料から要旨のみを抜粋し、可能な限り箇条書きとしてください。全体事業費(計画)を記載してください。
- 3 採択年度、目標年度は、英字半角大文字、数字半角文字としてください。
- 4 総事業費、工事費、用地費は現在の進捗の費用を百万円単位で記載し、数字半角文字とします。
- 5 進捗率は、%とします。
- 6 事業進捗内容は、再評価の当年度以前に実施した事業内容と次年度以降に実施する予定の事業内容を可能な限り箇条書きとしてください。
- 7 事業を巡る社会経済情勢等の変化、費用便益分析結果、コスト削減の可能性、代替案の検討等は、説明資料から要旨のみを抜粋してください。

(第8号様式)

令和4年度三重県公共事業再評価箇所一覧表

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	
						採択年	総事業費	進捗率				事業進捗内容
							工事費	進捗率				
						目標年	用地費	進捗率				
海岸事業	9	的矢港海岸(的矢地区)	志摩市	③	【全体事業概要】 [的矢地区] 護岸(補強):1,373m 陸圍(改良):7基	S61	7,060	76.5%	【整備済み内容】 [的矢地区] 護岸(補強):1,142m 陸圍(改良):7基 【残事業内容】 [的矢地区] 護岸(補強):231m	【社会的状況の変化】 想定浸水地域は、依然として人家が密集しており、事業の必要性に変化はありません。 近年の台風の大型化や集中豪雨の多発等もあり、当事業に対する地元の関心は非常に高く、護岸の早期全面完成が望まれています。	【費用対効果分析】 B/C=2.39 【コスト削減】 当海岸はリアス式海岸で形成された複雑な地形であることから、土質調査の結果を踏まえ、設計工区を細分化し、工区ごとに経済的な断面を採用するなど、設計時において可能な限りコストの削減に取り組んでいます。 また、工種ごとの大ロット施工により地盤改良船等の組立・解体費を削減しています。	【今後の見通し】 今後も、効率的な施工に努め、早期の事業完了を目指して引き続き事業を推進していきます。
					R13	-	-	【事業目的】 当海岸の既設護岸は、建設後50年以上が経過し、老朽化による損傷が著しいことから、高潮や高波等により護岸が破堤し、背後の人家密集地域が浸水被害を受ける恐れがあります。 また、南海トラフ地震・津波による浸水被害も懸念されています。 このため、高潮や高波等による浸水被害から背後地の生命・財産を守ることを目的として、護岸の補強及び陸圍の改良を実施します。				

注:再評価理由

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- ②事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- ③再評価実施後一定期間が経過している事業
- ④社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

令和4年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題	
						総事業費	総事業費						
						前回	前回						
						最終	最終						
海岸事業	508	長島地区海岸	桑名市	<p>【全体事業概要】 堤防工 耐震補強 L=1,398m 波返し L=1,398m</p> <p>【事業目的】 長島地区海岸は、伊勢湾に面し、三重県と愛知県の県境付近を流れる木曾川と揖斐川に挟まれた場所に位置します。背後地の桑名市長島町は、海抜ゼロメートル地帯が広がっており、また内閣府が指定した、南海トラフ地震防災対策推進地域になっています。 当海岸の海岸保全施設は、耐震性能調査の結果、地震により液状化の危険性が高い地盤であることが判明したため、地震で堤防が崩壊・沈下した場合、その後の津波・高波・高潮により背後地のナガシマリゾートや住宅等に甚大な浸水被害が想定されました。 そのため、地震による堤防の崩壊・沈下を防ぎ、その後の津波・高波・高潮から背後地の生命・財産を守ることを目的として、堤防の耐震補強や波返しを整備を実施しました。</p>	H29	4,319	<p>【事業の効果】 整備前は、地震に伴う液状化により堤防が崩壊・沈下し、その状況で高波や高潮などの異常気象が来襲すると、家屋などに浸水被害が生じると共に、住民の生命に危険が及ぶ可能性がありました。 堤防の耐震補強により、地震による堤防の崩壊・沈下が防止されました。これにより、高波や高潮などが堤内地に浸入することを防ぎ、家屋などの浸水被害を防止し、住民の安全が確保されました。</p> <p>【事業効果の評価】 B/C = 12.51</p>	昭和59年から令和2年までの伊勢湾における化学的酸素要求量(COD)の濃度を確認しました。 平成19年の事業開始以降、CODは増加傾向になく、事業による環境の変化はありません。	堤防背後の商業施設の年間入込客数は新型コロナウイルスの感染拡大前の令和元年まで三重県内の観光レクリエーション施設で最大の約1500万人前後で推移しており、桑名市長島町の世帯数も増加傾向です。桑名市では、自主防災訓練や防災学習を毎年実施しており、令和3年度は長島地区で自主防災訓練に327人、防災学習に582人が参加しました。また、桑名市長島町南部の伊曾島地区では、一時的な津波避難施設として「津波避難誘導デッキ(仮称)」の整備が進められています。	<p>【アンケート調査の概要】 長島地区の住民および周辺地域の桑名市・木曾岬町の住民に対し、アンケート調査を実施しました。 紙媒体のアンケートに加え、Webアンケートも実施しました。長島地区の住民を対象にした紙媒体のアンケートは315部、周辺地域の住民を対象にしたWebアンケートは250部、合計565部の回答が集まりました。</p> <p>【アンケート結果】 ①長島地区の住民 事業の認知度:67% 安心感の向上:51% 事業の満足度:48%</p> <p>長島地区の住民からは高谷の避難所の整備などの要望がありました。</p> <p>②周辺地域の住民 事業の認知度:21% 安心感の向上:64% 事業の満足度:50%</p> <p>周辺地域の住民からは維持管理の広報などの要望がありました。</p>	<p>【アンケート結果等の懸念事項】 ・長島地区の住民から高谷の避難所をの整備が要望された。 ・周辺地域の住民から避難訓練や啓蒙活動の実施が要望された。 ・パトロールや維持管理の内容について住民に紹介する必要がある。</p> <p>【対応事項】 ・津波発生時の早急な避難の必要性について引き続き説明していく。 ・堤防等のハード対策に加え、避難訓練の実施などソフト対策を組み合わせた防災対策を実施していく。 ・施設の効果が十分に発揮できるよう適切な維持管理を実施していく。</p>		
					H29	4,375							

※再評価実施事業は「前回」とし、再評価時の値を記載する。それ以外は「当初」とし、当初計画時の値を記載する。

令和4年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題
						前回	前回					
						最終	最終					
海岸事業	509	磯津地区海岸	四日市市	<p>【全体事業概要】 離岸堤 :3基(300m) 養浜 :62,300m³ 堤防(補強) :400m 堤防(地盤改良) :200m</p> <p>【事業目的】 磯津地区海岸の海岸保全施設は、伊勢湾台風後の築造から既に50年以上が経過し、堤防の老朽化(表法面のひび割れや堤体の沈下等)が著しく生じていました。また、波浪による海岸侵食にさらされており、年々汀線が後退していました。そのため、高潮や高波等から背後地の生命・財産を守ることを目的として、堤防補強による老朽化対策、地盤改良による地震対策及び離岸堤の整備と養浜による侵食対策を実施しました。</p>	H29		2,100	<p>【事業の効果】 整備前は、高潮や高波等により海水が堤防を越えて浸水し、家屋などに被害が発生する可能性がありました。また、地震時には液状化により堤防が沈下し、浸水被害が生じる可能性がありました。離岸堤及び養浜の整備により、波の高さを抑えるとともに、砂浜の侵食を防ぐことが可能となりました。また、堤防の嵩上げと法面補強を行い、高潮や高波等による浸水の防止を図り、さらには、地盤改良を行い、地震時の液状化による堤防の沈下を防ぐことで、浸水被害を防止しました。</p>	平成12年度から令和2年度までの近隣の水質調査の結果について確認しました。近隣の観測点である、四日市鈴鹿(甲)St4のCOD(化学的酸素要求量)は、年によって基準値を前後しているものの、事業期間内及び事業完了後において、傾向に大きな変動はありません。よって、事業実施に伴う水質の変化はないと考えられます。	磯津地区の世帯数に大きな変化はなく、背後地には依然として家屋や事業所等が密集しています。	紙媒体アンケートでは約53%、Webアンケートでは約57%が「安心感が増した」と回答をいただきました。 【事業効果に対する意見】 ・台風で波が堤防を越えなくなった。 ・昔の砂浜が戻ってきて嬉しい。 ・地域住民が安心して生活していけるようにしてくれたことに感謝している。 ・散歩しやすくなり満足している。 【改善・要望等に対する意見】 ・大地震や津波に対して不安である。 ・砂浜部の雑草・大雨の後などの流木、ゴミ類の漂着が多く、これらの除草や除去をしてほしい。 ・整備した施設の維持管理をしっかりしてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> 想定外と言われるような大地震や津波に対して不安であるといった意見があるため、ハード対策のみでは限界があり、ソフト対策が重要であることを伝えていきます。 砂浜への流木やプラスチックごみ等の漂着物や、堤防付近の草木が目立ち、利用・環境に関して改善してほしいとの声があるため、ごみ処理や除草などを行い、環境の美化に努めてまいります。 施設の維持管理をしっかりしてほしいとの意見があるため、施設の効果が十分に発揮されるための適切な維持管理を行います。
					H29		1,048	<p>【事業効果の評価】 B/C=7.56</p>				

※再評価実施事業は「前回」とし、再評価時の値を記載する。それ以外は「当初」とし、当初計画時の値を記載する。